

第9回小山町の教育のあり方調査研究委員会 議事録

- 1 開催日時 令和6年2月6日(火)午後2時30分開会
- 2 開催場所 小山町役場別棟会議室A
- 3 出席委員 武井敦史委員長、岩田祥吾副委員長
田中清子委員、山口純委員、斎藤美栄委員、杉本奈々委員
臼井聖香委員、相原正和委員
- 4 出席した事務局職員等
野木雄次教育次長、伊藤和彦学校教育課長
井上幹夫学校教育専門監、坂本竹人こども未来課長
中澤芳文学校教育課長補佐、池谷秀之こども未来課長補佐
湯山貴弘学校教育課副主任
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 教育長あいさつ
 - (3) 委員長あいさつ
 - (4) 議 事
 - ア 報告書(最終)について
 - イ その他
 - (5) 閉会
- 6 議事録

(1) 中澤学校教育課長補佐が開会を宣言した。

(2) 教育長あいさつ

教育長：私が委員の皆さんにお願いしたいことは、皆さんのそれぞれの立場からの御意見をいただくことです。アンケート結果を意見として使うのであれば、本委員会の意味はないと考える。今回、第6回以降の議事録を集中的に読ませていただいた。その中で私自身も委員ではないが、意見を求められて発言する場面もあり、事務局の参考にはなったと思う。この委員会で出された委員皆さんの御意見が報告書の中に反映されているか確認いただければと思う。先日、他市町の教育長さんと話すことがあり、懸念すべきことは子どもの数が減ってきており厳しい状態という話をした。他

にも問題点というのは、子どもにとっての人間関係の問題もあるが、それ以上に教員の教師力であるとか、学校経営力であるとか、指導力とかというのも実は非常に問題になっていっている。そうした力を身につけられる OJT ができる環境というのも子どもたちにとって良い環境になるのではないかと考える。そして、現在町が直面している少子化という厳しい現実に向き合う必要性をひしひしと感じているところである。本日はよろしくお願いいたします。

(3) 委員長あいさつ

武井委員長：本日の委員会が最終回となる。今回やらなければいけないことは、課題を共有しておくことだと考えている。これまで積み重ねてきた議論を報告書の形にして終わりではなく、むしろ、ここからが本当に大事になる。この先どんな方向で進めていくにせよ、ここで話したことがきちんと生かされる必要がある。但し、この中で何か意見を統一しようというわけではなく、どういう経緯を経て結論が出て、次の段階に対して、どのような希望を託すかという点をきちんと残していかなければならないと思っている。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

(4) 議事

武井委員長進行

(ア) 報告書(最終)について

議事(ア)について伊藤学校教育課長が下記の通り説明した。

委員の皆様には、本日の委員会開催に先立ち一読していただくため報告書の案を郵送させていただいております。

前回の委員会での意見を反映しつつ、武井委員長と事務局内で検討を重ね修正したものであります。

まず、事務局内で検討した内容を説明させていただきます。

教育長を中心として事務局内において検討した結果、前回から修正した主な点は、報告書と一緒に事前に別紙にまとめて郵送しております。前回の報告書の20ページの表題6、「今後の学校教育の改善について」を、8、「導入を検討すべき取り組みについて」に変更と、文章中の細かい点を修正しました。それに伴い前回報告書の表題7と8を、それぞれ表題6と7に繰り上げております。

これは、報告書の構成上の面から「小山町における教育環境の現状と課題」から「アンケート」その後、「こども園、小・中学校の今後について協議した内容」、「学校配置に関する検討のあり方について」と続き、その後、「導入を検討すべき取り組みについて」という順番の方が繋がりやすいという意見が事務局内であったからであります。

次に、同じく前回の報告書20ページ下段の試案5を削除しております。これは、地域や部活動に関する事項については、一度あり方委員会と切り離し、次の段階の委員会で検討すべきとの考えからです。

次に、前回の報告書22ページ中段よりやや上のC案を変更し、須走小中学校の一貫校化については、別に記載することとしました。同じ理由で前回報告書23ページの下段のD案を削除し、新たに（4）学校種間をまたぐ統合・連携 A～C案を追加しております。

次に、前回報告書27ページの終わりに（まとめ）が白紙だった部分に報告書を町民に周知するにあたり、今までに検討した内容について、趣旨を分かり易く説明するようにまとめました。

次に、前回、別紙だった参考資料（小山町における教育の活性化に向けたアイデア）につきましても、巻末に追加し、試案5「小山ジュニアクラブ」（仮）の創設については、この委員会とは切り離して、次の段階の委員会などで検討した方が良くとのことで削除しています。以上の変更に伴い、目次を修正してあります。

次に、今回示しました報告書案の20ページから25ページの協議内容のそれぞれの案に、視覚的に分かりやすくするように絵図を追加しております。

最後に、目次の一部（6. 町立こども園、小学校、中学校の学校配置について⇒今後について と 7. 学校配置に関する検討作業のあり方について⇒作業を削除）が修正しきれませんでしたので、最終的には修正いたします。事務局としての変更点は以上です。

委員長：今の事務局からの説明で不明な点、報告書に関して修正点等あれば御意見をいただきたい。

田中委員：1つ感想だが、P20以降に図が入ったのは視覚的にも分かりやすくなったと思う。

臼井委員：最後のページの試案3のイメージ図だが、文字が白文字で読みにくい。また、P14の学級数の折れ線グラフで成美小と須走小の色が同系色で少し分かりにくいと思った。

委員長：事務局で可能な範囲で修正をお願いしたい。

岩田委員：町民に対して、この報告書をインパクトある印象を与えるには、目次でいう「1. はじめに」と「9. おわりに」の順番を逆にしたらどうか。その方が、より町民に対して危機意識が強く伝わると思う。

委員長：確かに順番を逆にしたとしても、そこまで違和感はない。しかし、「1. はじめに」の中に、なぜこの委員会を立ち上げたのか理由がまとめられているため、この部分を入れないわけには

いかない。例えば、報告書はこのままの体裁にして、報告書の要旨を別途作成し、それを配布していただくことはどうか。特に問題が無ければこの方向で進めていきたい。他に意見等はあるか。

山口委員：自分の中で確認したいことが2点ある。1点目が、「9. 終わりに」の中で、前提として1つ目に「学校規模適正化の議論」という言葉が前面に出てきたが、本委員会設置要綱を見ると、規模適正化を目的としてとは書かれていなくて、広く教育政策とか、教育効果を高める環境等の視点で議論をしてきたという認識。そのため、ここにきて「学校規模適正化」という言葉が出てきたので、若干違和感を感じた。2点目は、同じ29ページの3番で、「中規模校」とある。これまでの議論の中で、「中規模校」がキーワードだったか。私は「複式学級」というところをイメージしていたため、皆さんと認識がずれていないかここで共有しておきたい。

委員長：山口委員の意見は、これまで事務局とも頻繁にやり取りをしてきたところである。本来、学校規模適正化としての議論をするのであれば、このスケジュールでは議論の期間が短い。これまで議論をしてきたことの中核は、少子化に対してどういう対応があるか。一方において、学校間の連携という学校の配置による対応、そして学校の教育の中身の対応の2種類がある。ただ、この議論は本委員会だけで完結するものではない。山口委員の感じた違和感は全くその通りだと思うが、これからどう動くかを考えたときに「学校規模適正化」という表現になってしまうと思う。中規模校については具体的に何学級とは明示していないが、一般的に中学校は4学級なので中規模校イメージとしての3学級程度はそれほどずれていない。ただ、中学校の先生からすれば、小学校中規模校イメージの2学級程度は少ないと思われる可能性はある。この辺りの表現についても皆さんの意見を伺いたい。

山口委員：小学校中学校も、2学級とかクラス替えができる規模という認識だったので、そこが中学校だけ3学級という数字に違和感を持ったのですが、委員長もおっしゃるように、一般的な中規模校イメージとそこまでずれていなければ良いと思う。町内で1学年3学級を作るとなると小・中学校を一つにするというような、裏を返すとそういう意味にも捉えられる報告書になるかも知れない。

委員長：そこまでは思っていない。これまで、将来的な試案の1つとしてあげられたことはあるが、小山町で学校を1校にした方が良いという議論はされていない。中規模校という表現もあ

くまでイメージなので、このぐらいの表現でもそれほど世間の感覚からずれていないと思う。

相原委員：小山町民の中で、今の現状を知っている人がいると、この報告書の文章を読むと、学校を1つにまとめようとしているという考えが出てくると思う。

委員長：学校を1つにまとめるということの、多面性を見せているのが問題。子どもの数の規模からすれば確かに1つにまとめる事は良いが、これはつまり教員数の大幅な削減と、その地域の学校がなくなる地域が増えるということ、そして教育委員会の組織の縮小に伴う人員削減により、今のような形では到底動けないことになる。この事実がどのぐらいの人が分かっているかということ。

相原委員：大多数の町民の方は、人口減少の問題に対して、学校を統合した場合、教員の数がどうなるのかを知っている人は教育関係者しかわからないと思う。だからこそ、色々な意見がでてきて、最終的に学校を1つにまとめてしまえば良いという話になってくる。

委員長：最終的にこの議案を通すのは議会になる。議会の中では当然そういう意見がもう既に出てるかもしれないし、それを加速させることにはなると思う。その辺りのメカニズムをどういうふうにして事務局が考えているのか、また、中規模校を2又は3学級としてまとめた趣旨をお伺いしたい。

教育長：一般の方々が中規模校を考えると理解しにくい。そのため端的に表すのであれば数である。人によっては、1学級以上あれば中規模と考えるかもしれないし、3～4学級を中規模と考えるかもしれない。やはり数をイメージしないと中規模校という表現だけでは解りにくい。そうした理由から小学校を2学級程度、中学校を3学級程度とした。

委員長：今の説明からすれば大丈夫。それ以外の所で御意見等あるか。

山口委員：細かいところだが、報告書全体を通して、和暦と西暦が混在しているのもので統一をした方が良い。

岩田委員：文末表現が「です・ます」調と「である」調（P20～）も混在している。

委員長：文末表現はどちらに統一をするか。

田中委員：「1. はしめに」と「9. おわりに」は「です・ます」調にしてそれ以外は「である」調が良いと思う。

委員長：ではその方向で修正をお願いしたい。その他はどうか。

岩田委員：P30 の上から 9 行目に読点があるので削除を。

委員長：最終ページの試案 4 の表の中で「北郷」地区とあるが「須走」地区が正しい。

山口委員：同じ箇所、表の上の文章で「特に市内の～」とあるが「特に町内の～」が正しい。次に、先ほど岩田委員からの指摘があった P30 の 10 行目に「～進めていく、」とあるが、読点ではなく、句点だと思う。最後に P27 の中段文章で「6 に示した方策を～」とあるが「8 に示す方策を～」にした方が良く思う。

相原委員：試案 3 のところで、6 段落目の文章うち「子供会」を「こども会」へ、ひらがな表記にしてほしい。

委員長：これから報告書完成までの時間的なイメージはどう考えるか。

事務局：今回いただいた指摘事項を修正後、委員長と確認し、最終的に完成した報告書を委員の皆様へ配布予定。

委員長：もし、これから誤字脱字等あれば事務局と修正するが、報告書の内容についてはこの方向で進めさせていただく。

(イ) その他

本日の意見を踏まえ報告書を修正し、委員長と確認のうえ完成とさせていただきます。最終報告書が出来次第、委員の皆様には送付させていただきます。

なお、議会へは 3 月定例議会の最終日に行なわれる、議員懇談会において報告させていただく予定ですのでご承知おきください。

議会への報告後にホームページへの掲載や、各報道にもプレスリリースしたいと思っておりますので御承知おきください。

(5) 伊藤学校教育課長が閉会とした。